

# 活力ある同窓会を目指して

## 現在・過去・未来

### 座談会出席者

比嘉正幸（5期 会長）、高嶺善包（17期 副会長）、渡久山長輝（8期 関東支部長）、山城賢孝（5期 関西支部長）、新川和夫（24期 九州・山口支部長）、大山 隆（11期 奄美支部幹事）  
下地康嗣（6期 宮古支部長）、伊舎堂用八（10期 八重山支部長）、上江洲盛元（7期 久米島支部長）、又吉慶次（1期 元事務局長）、仲宗根健三（4期 元事務局長）、志良堂清治（15期 評議員）、当山尚幸（19期 評議員）、上原 修（31期 評議員）、増田昌人（35期 評議員）、宮城武久（9期 事務局長）仲門勇市（9期 評議員・司会）、儀保博信（14期 評議員・司会）

司会（儀保博信） きょうはお集まりいただきありがとうございます。これから同窓会の座談会を開きたいと思います。これまでの活動を振り返りながら、今後の同窓会の活性化や組織強化などにつつまして忌憚のないご意見をいただけたらと思っています。私は前半の司会を担当します。1966年（昭和41年）社会学科卒、14期の儀保です。よろしくお願ひします。まず自己紹介をお願いします。

仲門勇市 私は座談会の後半を担当します仲門です。文理学部法政学科9期生です。勤務は琉大から始まりましたが、県外に出ています。昨年沖縄に帰ってきました。同窓会の仕事は久しぶりです。どうぞよろしくお願ひします。

又吉慶次 1期の卒業です。よろしくお願ひします。

増田昌人 1988年（昭和63年）の卒業です。

きょうは医学科同窓会の会長として出席させていただきます。

上原 修 1983年（昭和58年）社会学科卒の31期です。今、同窓会会報の編集活動をしています。

高嶺副会長 現在副会長をしています。1964年（昭和39年）商学科に入学しました。

上江洲盛元 久米島の支部長をしています。1955年（昭和30年）入学、1959年（昭和34年）に卒業しました。当時はツーバイフォーの瓦葺きの校舎でした。卒業後は教職をしていました。後輩たちに支えられて、昨年10月に支部を結成しました。

当山尚幸 1966年（昭和41年）入学、1971年（昭和46年）卒業です。よろしくお願ひします。



比嘉正幸

比嘉会長 同窓会会長をさせていただいております。1957年（昭和32年）に卒業、当時は政治学及び法学科という学科名でした。15、6人程度でした。4年生のとき島ぐるみ闘争があっ

て、7人の仲間が除籍処分を受けることになりました。大学時代はそのことしか頭になくらい大変な出来事でした。

渡久山長輝 関東支部です。1960年（昭和35年）、物理学科の卒業です。3年前に関東支部長になりました。

山城賢孝 1953年（昭和28年）入学、理学部数学科に入学しましたが、当時数学科は転科



山城賢孝

もできましたので、私は2年の時に教育学部教育学科（心理学）に転科し、卒業は教育学科です。卒業と同時に名護高校に勤務し、その後本土に渡って、大

和郡山高校、奈良一条高校に勤めたり、会社勤めをしたりして、関西に住んで41年になります。そこで、松村圭三さんや成田義光さん、金城盛紀さんなどと共に関西支部を結成しました。関西支部は松村さんが初代会長で、成田さんが2代目、私は3代目です。関西ではだいたい200人ほどの名簿会員がいますが、集まるのは30人前後です。

大山 隆 奄美支部です。本日は山田薫さん

（支部長）が来られませんでしたので、幹事をしている私が参加しました。かつて、奄美大島には琉大の分校がありまして、その卒業式が印象に残っています。時の流れに翻弄されたなあと思います。1959年（昭和34年）生物学科入学、1963年（昭和38年）の卒業です。

下地康嗣 宮古支部です。1954年（昭和29年）入学、1958年（昭和33年）の卒業です。当時は文理学部でして、その化学科を卒業しました。宮古支部は、支部の立ち上がりは早かったのですが、休眠状態というのがかなり続いておりました。それでも40周年の募金はやってきました。一昨年に休眠状態から抜け出しまして、昨年私が支部長を引き継ぎました。現在宮古支部は300人余りの会員がいます。なんとか、支部活動を活性化させて盛り上げていこうと考えています。今年古稀を迎える年齢ですが、ちっとも知恵がわなくて（笑い）、皆さんよろしくお願いします。

伊舎堂用八 八重山支部です。文理学部史学科の卒業です。大学時代は音楽活動をよくやりましたが、オリエントタル労組の支援とか、あるいはアイゼンハワー米大統領が来沖した時は、それを阻止するんだと、琉球政府前で警備の警察と対峙した



伊舎堂用八

こともありました。私たちの時代はそういう時代でした。卒業後はほとんど八重山で教職を勤め、退職も母校の八重山高校でした。同窓会の組織の拡大ですが、私たちも公務員とか、教職の皆さんでまずやろうとスタートさ

せたんですが、どうも皆さん年をとりまして、動きが鈍くなっている状況です。どうすれば、また組織がよみがえるか、そのあたりをきょうの座談会で参考にしたいと思います。そして私にも教え子たちがいますから、50代、40代の後輩たちにバトンタッチをしていきたいと思っています。

志良堂清治 15期です。商学科出身です。卒業後は琉球銀行に入社しました。私は松本行雄さんの後を継いで評議員になりました。

新川和夫 九州・山口支部です。実家は浦添市にあります。入学は復帰の年の1972年（昭和47年）で、24期です。学科は理工学部機械工学科です。その当時は、琉球大学には大学院がなく、大阪大学の大学院に入りまして、ドクターコースを出ました。その後九州大学で助手として働き、現在教授です。2002年（平成14年）に琉大に集中講義に来まして、講義を終わってお茶を飲んでいましたら、山城康正工学部長から「九州・山口支部を作るんだけど、支部長をしてくれ」と言われました。それで現在まで引き受けています。

宮城事務局長 琉大同窓会事務局長をしています。私は電気工学科の1期生で、全体では



宮城武久

9期生です。電気工学科が部屋もないようなみすばらしい時代でした。学科は工芸ビルの一角でスタートしました。同窓会50周年の仕事ができることを非常に誇

りに思っています。

仲宗根健三 文理学部法政学科で、4期卒業です。どうぞよろしくお願ひします。

司会 まず、50年の歩みと現在の状況を事務局長から説明してください。

事務局長 かいつまんで報告します。1954年（昭和29年）、12月に146人の1、2期生で結成しました。和氣さんが会長です。1985年（昭和60年）12月に初めての支部の宮古支部ができました。1986年（昭和61年）に浦添支部が沖縄電力の中に誕生しました。しかし今ではほとんど消滅の形になっています。1987年（昭和62年）に関東支部、奄美支部ができ、今の事務局体制が整いました。なお、又吉慶次さんを初代事務局長としたのは、その年から事務局（事務室）が設置され、専任を配置したことによります。1989年（平成元年）には那覇市役所支部ができました。大城盛三さんが当時、市の助役をやっておられて、それでできたようです。しかし今は、組織はないような状況です。1990年（平成2年）八重山支部、2002年（平成14年）九州・山口支部、昨年（平成16年）久米島支部が結成されました。今活動しているもので7つ目の支部ということになります。総勢6万2千人余という会員がいることになります。

会はどのように活動してきたかという、平成2年度より終身会費として1万円を徴収。又吉事務局長のとき、規則改正をしています。事務局は、2003年（平成15年）6月2日に、今の場所に移転しています。会報の発行は、平成元年3月1日に始まっています。20号までは年2回発行、それ以後は1回となっています。

大学に対し26項目の支援があります。大学

創立から支援があり、20周年、30周年記念には2800万円、平成2年の40周年には1500万円を大学に寄付しています。同2年から現在まで、卒業生に対してボールペンとか、CDを入学祝い、卒業祝いに贈っています。

50周年記念には6500万円余りを寄付しています。

トータルで開学記念等に使ったのが1億5000万円、課外活動とか、就職支援の活動に2260万円、CDとか、入学祝いに贈呈したのが2600万円、琉大ウェア、Tシャツが420万円。総額1億5334万円の支援をしてまいりました。

司会 ざっと同窓会活動の経過を報告してもらいました。仲宗根健三さんや津波古浩さん、森山皎さん、松村圭三さんたちは、かつて図書館前にテーブルを出して、卒業式や何かの行事があると入会金を集めておられたようです。資料によるとあの頃は入会金が1ドルとか千円だったようで、かなり予算的にも苦労されたと思うんですけど。あの頃は琉大事務局職員が同窓会事務局を兼ねていたようですね。

仲宗根 私が同窓会の事務局に関わるようになったのは、1958年（昭和33年）学内人事異動により学生部厚生課（松村圭三課長）に配置転換になり、松村課長が米国へ研修留学

（1961年～1963年）することに伴い、その間の同窓会事務局業務をあずかり、同窓会役員と連絡及び同窓会入会金徴収業務を依頼されたことに始まります。



仲宗根健三

同窓会発足の頃、同窓会は、専任の事務職員を置く余裕はなく、大学学生部の事務分掌の一項目として「同窓会に関すること」が定められていました。松村課長は同窓会副会長をしておられたように思います。それで、松村さんが戻ってくるまでは私が入会金の徴収などをやっておりました。

当時琉大の卒業生で、大学におられた皆さんの加勢をいただきまして、図書館前だとか、あるいは卒業生のよく通る場所に机を置いて、なんとか呼び掛けて徴収をしておりました。あんまり徴収率はよくなかったような印象があります。

それから松村課長が留学を終えて戻り、琉大に復帰したことにより同窓会事務局業務は松村課長に戻し、当方は松村課長を手伝うような形になりましたが、松村課長が事務局庶務課長に転出するに伴い実質私が同窓会事務局をあずかることになりました。当時同窓会会則に定める事務局組織はまだ確立していませんでした。

私が覚えているところでは松村さんは多分副会長をしておられたんじゃないかと思えます。それで、副会長が事務局長も兼ねておられたんじゃないかと考えております。

松村さんが1976年（昭和51年）4月に大阪教育大学の庶務部長に転勤になり、その時も「あとは君だよ」ということになりました。個人的に「君やってくれよ」ということになったわけですし、資料に事務局長と書いていますが、事務局長に任命された覚えはないんです。

当時を振り返りますと、同窓会には、4つの係を置くようになっているんですね。総務係、会計係、企画係、組織係というふうにな

っていました。このまえ、同窓会長の座談会の記録を拝見しましたら、富永元順第2代会長の発言の中に、「休眠状態の時に垣花豊順さんと、花岡恵林さんと、仲宗根健三さんの3人から手紙が来た」というふうに記されてありますが、同窓会の休眠状態が具体的にいつからいつまでの間をさしているのかわかりません。1961年（昭和36年）～1994年（昭和39年）までのある時期を休眠状態というのであれば、同窓会事務局をあずかっている私共が会長及び役員活動をサポートし得なかったことによるものであり責任を痛感しています。少し言い訳をさせてもらえば、1961年中頃から1970年代初めにかけて学生運動の激しい時期で、琉大においても校舎等の封鎖、占拠、学生間の派閥争い、暴力事件等で大学が正常に機能しない時期でした。また、本土復帰に伴う国立大学への移行準備作業等の業務に忙殺され、同窓会事務局の仕事が手薄になっていたと思います。確かに、停滞はしていたと思います。

とにかく、「入会金だけは集めることを続けよう」というふうに思いました。続けなければ同窓会はなくなってしまうのではないかと、という危機感もありまして、細々ながら徴収の仕事だけは続けておりました。休眠状態といわれる中でも琉大に在籍している同窓生の



左から仲宗根、又吉、仲門

協力を得ながら卒業生からの入会金の徴収を続けたことにより同窓会は存続し得たのではないかと思います。

もう一つは組織強化。同窓会では評議員会及び総会において当時同窓会の組織強化について話題になっていました。例えば同窓会員の増加に伴う総会の在り方と代議員制の導入、評議員会の中に運営委員会を置き小回りのきく同窓会活動ができるようにすること。事務局の組織を強化すること。同窓会館建設と同用地取得に伴う法人化の問題等がありました。

一方で、評議員会の中に運営委員会を設け、もう少し、少人数で働きやすいようにすればいいんじゃないかという話もそのころ出ました。さらに、財団法人にしてはどうかという話もありました。そういう話は出ましたけれども、なかなか前に進まない。そういう状態が長く続いていたように思います。又吉初代事務局長作成の資料によれば、1984年（昭和59年）に私が事務局長に就任したとありますが、実態は花岡恵林さんが（法政学科卒）事務局長の役目を果たしていたと思います。まずはそこまで話しておきます。

司会 設立から30年ぐらいは、そのような状況だったんですね。何か関連して覚えておられる方いらっしゃいませんか。

仲門 私は、第2代会長の富永さんの時ですね、仲宗根さんのもとに琉大庶務課職員としておりました、会則を見直そうじゃないかということになりました。今の会則では組織として成り立たないんじゃないかということでした。それで会則作りで奔走いたしました。

もう少し法人化に近づいた形のものに作り

直したらどうかという話もありました。会則案を作成して、仲宗根さんの了解を得て、那覇地方裁判所の富永会長の所に行き、花岡さんも集まっていたいて、皆で議論しながら成案づくりをしたことを覚えています。

ただ、私はそのあと琉大から外部に出ましたので、その後はタッチしておりませんので承知しておりません。

仲宗根 もう少し付け加えてよろしいですか。

司会 はい、どうぞ。

仲宗根 私が覚えていることの一つとして、同窓会館建設という話を進めていたことがありました。那覇市松川の琉大用地に同窓会館を建設することについて琉大当局の了承が得られ、同用地に、「琉球大学同窓会館建設用地」と表示した大きな看板を建てましたが、当時医療要員の養成機関の設置が内外で叫ばれ、大学で慎重審議の結果、同用地に琉大保健学部学生寮の建設（1970年着工）が優先され、同看板は降ろされました。

もう一つは評議員会を開くときは、通常大学の会議室で開いていましたが午後5時以降開催する場合は、豊川永昇法律事務所並びに宮国義夫法律事務所などを借用して開催することもしばしばでありました。両事務所の職員の皆さんの大変なご協力を得ましたが、またご迷惑もお掛けしたと思っております。

司会 私の記憶では、当時会合に参加しましたら、食べた以上に会費を取られた覚えがあります（笑い）。  
そういう時代もありました。

会長 よろしいですか。

司会 はい、どうぞ。

会長 私は、役員も何もやっておりませんで

したが、当時仲宗根さんが訪ねて来られて、同窓会が壊滅状態だからなんとかしてくれと言われました。当時、私はまだ裁判所にいましたから、そういうことはできませんでした。その後、同窓会は立ち直ったんですが、当時のことを振り返って一番悪かったことは、同窓会の名の活動を一部の人がやっていたことでしょう。例えば役員についても、出身地、学科が偏っていたことなどです。そういうことでやっているものですから、全体の同窓生が無関心でして……。

そんな同窓会が蘇ったのは、評議員、役員を全学科から出すということにしたことです。役員選考基準というものをつくりまして、その中にそういうことを明記したことです。

それから発足した評議員会というのは、初めて各学科の代表が出てくるという形になったものですから、そこからが本当の意味での同窓会ということになりました。

司会 かなり厳しい時代があったことは確かですね。とにかくつぶれるんではないかという時代もありました。以前の総会で東江康治学長が、「会費は千円ではもう大変だ」とおっしゃっておいりました。私も卒業式の時にテーブルを出してやったことがあるんですが集まったのは三千円くらいとかですね。本当に1人、2人しか納めてくれなくて、それで、東江学



儀保博信

長が「少し上げたらどうか」と話をされました。終身会費を取ったらどうかという話がありまして、それで今、財政的によくなってきたと思うんです。又吉さんはそのときはもう事務局に入っておられました。又吉さんが事務局を引き受けられて、その辺の話をお聞かせください。

又吉 今、仲宗根さんのお話もありましたが、私が砂川さん、花岡さんから事務局長を引き継いだのは1987年（昭和62年）の8月1日です。



又吉慶次

先ほど仲宗根さんは事務局長に任命された覚えはないとおっしゃいましたが、私の就任前のことではあります。残された文書を通して、少し述べさせてもらいます。

1984年（昭和59年）7月4日に同窓会の再建と活性化を目指し、臨時総会が開かれ、そこで第4代会長に富永さんが選出されました。その時、事務局長に仲宗根さんは任命されていると思います。と言うのは1986年（昭和61年）版の同窓会員名簿に写真入りで載っておりますので、これは言い逃れできないわけですよ。（笑い）

1986年（昭和61年）6月26日の総会で富永さんは会長に再任されました。そして、同年の7月1日に事務局長は仲宗根さんに代わって花岡さんが就任しました。これは、仲宗根さんが県外の大学へ転勤になったからであります。

次に1987年（昭和62年）6月27日の総会で安次富長昭さんが第5代会長に選ばれまし

た。富永さんは会長の任期半ばでしたが、県外裁判所への転勤があったのであります。そして、同年の8月1日に私は花岡さんの後を継いだのであります。

同窓会の再建と活性化のため同窓会事業募金が1985年（昭和60年）5月から開始されました。私が就任する1年5カ月前の1986年（昭和61年）3月には、すでに募金の目標の一つである同窓会員名簿が発行され、また、9カ月前には募金の中間報告書も刊行されておりました。こうすることで、事務局長の仲宗根さん、花岡さん、それに事務局次長の砂川栄右さんは、大変ご苦労されております。

この同窓会事業募金は安次富会長になっても継続することとなり、新しい募金趣意書を作成し、役員（会長・副会長・評議員・監査員）でチームを作り、まだ訪問していない職場を回るという募金活動が続けられました。そして、1988年（昭和63年）6月25日の総会で大城盛三さんが第6代会長になってからも募金は継続され、ついに1990年（平成2年）6月16日の総会において最終報告がなされました。3代会長、5年の歳月、募金の協力者約4200名、募金総額2000万円、目標とした6事業のうち4事業を達成しています。同窓会員の団結力の強さと、会活動の連続性の大切さを強く感じさせられます。

話が少し長くなりましたが、あと少し続けさせてください。先ほど司会の儀保さんから、会費千円を集めるのに苦労している儀保さんを見て、当時の東江学長が、終身会費も考えてみたら、と助言をくださったそうですが、この終身会費をはじめ、入会金・同窓会報・開学40周年記念事業募金それに先ほどの同窓会事業募金は一見別々のように見えて、実は

1本の糸のようにつながっているのです。

1987年度の重点課題の1つに、徴収不能となっている会費（年額千円）の解決がありました。1年間の検討の結果、1988年度総会において、入会金千円を1万円に増額することを決め、実施しました。翌1989年度の総会で会費（年額千円）を改め終身会費1万円としました。これと関連して、入会金1万円を納入することになった入会者からは「当分の間、終身会費の徴収は保留する。」となりました。また、1989年（平成元年）10月1日から1990年（平成2年）9月30日までは開学40周年記念事業募金があるので、その間の終身会費の本格的徴収は実施しないことになりました。

入会金の増額は会長はじめ役員一同、苦渋の決定でした。この改正のおかげで、かつて会の運営費が苦しくなり急に役員1人当たり1万円を出すといったこともなくなりました。

同窓会の財政が安定したことにより、かねてから事業計画にあった同窓会報の発行や在学生課外活動援助費の贈呈もできるようになりました。同窓会会報第2号には開学40周年記念事業募金への協力依頼文を掲載し、同号と募金関係文書を同じ封筒に入れ、初めて同窓会員一人一人の住所あて発送することができました。

同窓会の事業募金と開学40周年記念事業募金はある期間重なりましたが、同窓会員各位は、そのいずれにも大きな協力をされました。1990年（平成2年）10月1日からは本格的な終身会費の徴収が始まりましたが、同日付で私の次の事務局長に就任された平良善一さんは、この事業を含め、その他多くの重要な事

業の推進に尽力されました。

長くなりましたが、これで私の話を終わります。

司会 ありがとうございます。あと1人お話を伺って次の話に移ろうと思います。同窓会会報は27号まで作りました。1号は1989年（平成元年）でしたが、諸先輩のメンバーも協力されて、そのときからずっと続いているのは上原修さんと私の2人です。最初のころはまだバブルが弾けないころで、これが3号、4号やっていくうちに、そろそろ危ないんじゃないかということになりました。バブルのころは、広告料がどんどん入ってきまして、60万円くらい取れたこともありましたが、バブルが弾けると10万、20万ぐらいしか取れなくなりまして、だんだん厳しい状況になりました。2、3年前からは年1回の発行というところまでできています。上原さん何かありましたら。

上原 私は第1回から儀保さんと一緒に携わってきました。そもそも評議員になったのは、うち（琉球新報社）の現社長の比嘉辰博のほうからですね、「同窓会の評議員をしてもらえないか」という話があったからなんです。編集局には琉大卒業がたくさんおりますが、たまたま私が比嘉の目の前にいたのだと思います。

それで引き受けました。ある意味でタイミング的によかったのかなあと思ったのは、引き受けてまもなく、会報が始まったということです。取材であちこちいきましたが、南大東



上原 修

では气象台で働いている同窓生がおりました。ただ、その後あちこち行けるのかと思いましたが、予算のことも少しはあったのか、それよりも私の仕事が忙しかったのだと思いますが、それほど取材活動を幅広く行うことはできませんでした。それでも職場訪問とか、恩師訪問とかいう形で取材をやりました。

そういうのをやっていて感じるのは、サークルとか、学科とか、だいたい人間が模合をやってつながっているというのがあるんですね。しかし、それが一つの、大きな大学という形になると、琉大に対するアイデンティティーがちょっと弱くなるのかなあ、という感じがしました。その辺が今後クリアできたらいいと思います。取材の時に同窓会会報を持っていったり、会費の請求書を持っていったりしながら、少しずつ輪を広げられたらいいなあと思います。

司会 ありがとうございます。だいたい今までの、中期くらいまでの話です。後半はですね。各支部の状況とこれからのことを話してほしいと思います。渡久山さんは関東支部は最初は副会長としてやられたんですか。その辺のところをお聞かせください。

渡久山 東江康治先生が学長になられた時にですね、関東支部を作ろうじゃないかとなりまして。それまでは何人かが集まって飲んでいたんですよ。しかしそれは同窓会には結び付かなくて、それから1期生、2期生あたりがですね、飲み仲間的に集まり、同窓



渡久山長輝

会のような形になったんですね。

司会 奄美支部の大山さん、どうですか。

大山 復帰の頃に入学した人たちがもう50代になっていますが、今の前半の話は、同窓会そのものの歴史で、その中に一つ落としてほしくないなあというのが、分校があったということですね。それは記憶の中にとめていたきたいですね。その卒業式が39年ぶりに、行われたということで。又吉さんが事務局長をされているときです。1973年（昭和48年）以降はですね、大島高校からも琉大に入学生が通えるようになりまして、1975年（昭和50年）には30何人か、入学しているという記録があります。今、先ほども申し上げましたが、名瀬市役所には、一職場ですけど40人前後の会員がおりまして、市役所支部というのを作って彼らは彼らなりに活動しているということです。ちょうど世代交代の時期にきているんじゃないかと考えております。



大山 隆

司会 ほかに支部の話を。

新川 九州・山口支部は発足が2002年（平成14年）4月ということで、3年しか経っていません。私が名簿を持っている限りでは、だいたい1300人ほどいるんですが、ほとんどが復帰後に入ってきた同窓生で、それも鹿児島、宮崎と南の方にかたまっていまして、さてどうしようかなと考えていまして、あとでも提



新川和夫

案したいと思います。

まずは各県1人ずつを  
見つけてですね、県の  
まとめ役をお願いしよ  
うかなと少しずつ広げ  
ています。そして九  
州・山口と全体の輪を

広げていこうと思います。インターネットと  
かも通じてやってみようと思います。

司会 上江洲さんはさっきの話でよろしいで  
しょうか。

上江洲 琉大が新しく法人化になって、海洋  
生産学科とか観光科学科とか新設するとい  
うことですが、それとの関わりで、皆さんの力  
も借りて今、燃え上がっている久米島の水産  
業、特に深層水を、生かした研究ができれば  
と思います。また、深層  
水の研究所があり、いま  
は企業が生産に入ってい  
ますが、皆さんの力を借  
りて久米島の特産づくり  
で生じる研究等なんとか  
生かして琉大の活性化に  
つながればよいと思います。



上江洲盛元

司会 ありがとうございます。これまでの  
ところで何かありますか。

渡久山 ちょっといいですか、又吉さんが事  
務局長になられたのが1987年（昭和62年）で  
すか。関東支部ができたのも1987年なんです  
よ。本部からも何か支部結成に働きかけがあ  
ったんですか。

又吉 先ほども申し上げましたが、私は事務  
局長になるまではまったく同窓会に関係して  
いなかったものですから、亡くなられた初代  
支部長の船越尚美さんが、私が事務局長をし  
ているときに一度お見えになったんですよ。

高嶺 私も富永さんや花岡さんのころから評  
議員をやっていますが、その時はほとんどが  
募金活動でしたね。おっしゃるとおり、その  
時の募金活動は職場単位でしたね。私も最後  
のほうは又吉事務局長  
と具志川のほうまで行  
かせてもらいましたね。



高嶺善包

又吉 名簿は募金して  
作ったんですね。1986  
年（昭和61年）にはで  
きていますね。

司会 会員の拡大、支部の充実、事務局の組  
織強化、専任職員の増員の件など、または、  
法人化になりまして、印刷業務などの収益事  
業などができるのではないかと思います、  
例えば△△大学でしたら、△△出版会とかあ  
り、あちこちの私立大学では収益事業をや  
っているわけです。奨学金を導入したらどうか  
という話もあります。同窓会の法人化の話も  
ありました。これらのことでお気づきな  
点がありましたら、あとでお話をお聞かせく  
ださい。

その前に現況と問題点を比嘉会長からお願い  
します。

会長 同窓会活動を始める一番基本的なもの  
は資金がないといけないということ。それが

ら名簿を確実に作らないといけないことがあります。名簿については1986年（昭和61年）に最初の名簿ができて、ところがこの名簿、住所のところなど白紙の部分が多くて、ほとんど用を足さないような状態なので、これをなんとかしなくてはいけないということで、名簿作成委員会を作りまして、しかもそこからコンピュータというものが導入されていましたので、専任の友利徹男さんをお願いして、データ化しまして、一応名簿を整理しました。名簿のほうは現在、完全とはいきませんが、会員の数もつかめますし、ある程度の人たちの住所をつかめるようになっていきます。

もうひとつは、会費のことですが、同窓会は現在入会金と、終身会費というのがあります。入会金というのは、最初のころは卒業生から卒業するときに徴収しておりましたが、現在は大学に入学するときに取ることになりました。以前は大学側がテーブルを置いて授業料徴収をやっていたものですから、そこに一緒にテーブルを置いて、入会金1万円を取っていました。終身会費のほうは、毎年郵送で徴収している状況です。

ところが大学のほうが、入学金など振り込みの制度になったものですから、一昨年前くらいまでは、実際に来て支払う者もいたものです。しかしこれが昨年からは振り込みの制度に変わったものですから、まったくだめになりました。大学側は同窓会というのは大学の機関ではないので、入学金などの払い込みの書類の中に、同窓会のものを入れるわけにはいかないということです。それで昨年はほとんど収入がないような状況になりました。しかし、これではいけないということで高嶺

副会長なども学長に掛け合まして、これは随分苦勞しました。事務当局がこれをやると文科省から絶対文句が来るのでだめだということだったんですが、役員と同窓会事務局長も学長のところに行きお願いし、学長はそのことを非常に悩んでおられ、最近になって条件を加えて、封筒の中に入れてもらえることになりました。それでも任意ですから、入学生全員ということにはいきません。昨年の状況ですと、同窓会はつぶれるんじゃないかと思いました。

いま、大学に対する支援の大きな柱のひとつは、150万円の課外活動援助費で、毎年ずっと続けているわけです。これもできなくなるんじゃないかという危機感があったわけです。もうひとつは、一昨年10月から同窓会で就職講座を開いています。これは琉大の卒業生の就職率が非常に低く、また、教員選考試験をはじめ各種試験に合格する確率が非常に低いのでどうかしなければならぬということで始めました。大学に就職活動をするための機関を作れということをお私はずっと言ってきました。やっと就職センターというのを立ち上げたんですが、実際には機能していないような状態なので、これじゃいけないということで、同窓会自体でいま、OBの皆さんを呼んで、例えば具体的には、採用試験の対策のための講座を行っています。この大きな柱は続けていかなければならないかと思えます。

もう一つは、関東支部に5、6年前に行ったときに話したことですが、今はITの時代ですから、同窓会もホームページを作って、すべてのことはコンピュータを通してやろうと考えています。これも大学とうまくいかなくて、琉球大学の1事項として、やろうと考え



左から大山、山城、渡久山

たんですが、なかなか「うん」と言ってくれないんです。ここ数年「やります」「やります」と言ってなかなかやれない状態なのです。関東支部に先にやられてしまいました。

それができれば組織の強化もできますし、活動がもっと広がると思います。

残念ながら、大学自体が同窓会に対して認識が足りないといえますか、その半面、独立行政法人化したわけですから、「同窓会の役割は大きいですよ」と言いながら、なかなか同窓会に対する協力というんですか、腰が重いような感じが致しております。学長は非常に理解していただいているんですが…。ただ、同窓会が記念会館に入ることができましたんでね、ここを拠点にして評議員会もここでやるようになり、就職講座もやるようになりましたので、同窓会の活動も非常によくなっていると思います。

司会 それから同窓会の法人化の話ですが。

会長 この点につきましては和気さんから私に「早く法人化しなさい」という要望があったんですよ。私は専門の立場から、これはまず「同窓会を法人化するメリットがないですよ」と言いました。それから公益法人の認可を受けないといけないんですが、公益法人と

いうのは広く社会のためにやるんで、同窓会というのは同窓会内部のことなので、認可が受けられる保証がまずない。それからもう一つは財産（不動産）がある場合は法人格がある方がよいのですが本同窓会は、現金はありますが、固定資産やその他のものはありませんので、今のところ、法人化に向けた調査・検討は一斉行ってはおりません。

当山 法人化の話が出ましたので、専門的立場から若干情報提供をしたいと思います。たしかに従前は、同窓会に適した法人制度はございませんでした。公益も営利も目的としない団体、例えばPTA、同窓会、門中等の法人化の道がなかったわけです。



当山尚幸

しかし、中間法人法が平成14年4月1日に施行され、同窓会も法人化できるようになりました。準則主義なので、登記すれば成立でき、官公庁の許認可は不要です。

メリット、デメリットはあります。メリットとしては、預貯金その他の財産を法人名義で管理できるし、権利主義の主体となりうることで不動産の所有名義人にもなりうることです。デメリットとして、設立時300万円以上の基金を必要とすること、税務上の優遇措置はなく、毎年税務申告をしなければいけないので、経理担当の業務が増えること、利益はななくとも頭割りの法人税（約15万円）を負担させられること等があります。

私は、いくつかの門中につき法人化する作業に加わったことがあります。中には費用

がかかりすぎるとか、むしろ煩雑になるとの理由から、設立をあきらめるところもございました。

琉大同窓会も一度は検討してみる価値はあると思います。本日は何の資料も手元にございませので、必要があれば、後日ご連絡下されば提供します。

下地 同窓会の下部組織のような形で、財団法人を作ると、奨学金などを集めた場合に、財団が管理する。財産は法務局に登録しますから。それで資金を管理する財団を下部組織につくるという考えはどうですか。同窓会奨学金を作る場合に財産を管理すること、いまの時代、金利は低く果実はとても少ないのですが、いろんな寄付が入ってくるんですね。寄付をもらって管理していくと、全国にそういうのを広げて、寄付をしてくれることもあるでしょう。税控除の面でも活用されるので、これは有益ではないかと思えます。



下地康嗣

会長 先ほど言い忘れましたが、募金活動をする場合は免税措置というのが必要になってきます。同窓会というのは法人でないからそういうことができません。今回の50周年には、琉球大学後援財団というのがありまして、それを利用して、いったんそこへ寄付していただいて、証明書を発行してもらって免税措置をしてもらうことにしました。ですから募金を集めて何かやる場合はそういう形でできるものですから、後援財団を通して大学に寄付をする。そういうことで実施してきまし

た。

事務局長 組織強化というのがあるんですが、いま、同窓会は6万2千人の同窓会員ですよ。しかし、いま会報を送るのは1万7千人なんですね。3割しか発送できない。しかも毎年500部くらい返ってくるんですよ。事務局の與那城さんは、返ってきたものを追跡して日々やっているんですよ。それでも転居とかいろいろな事情があって、また来年は戻ってくる。本当にたちごっこなんですよ。だからこれが一向に増えない。追跡できないし、今の時代だから、引っ越し先もアパートの大家さんなどは教えてくれないです。今は終身会費で成り立っているんですが、日ごろの運営はやっていきます。

高嶺 今は財団のレベルではないんですね。今は同窓会が存続できるかどうかなんです。前年の入会金徴収のレベルなら存続できないのは目に見えています。今は財政をどう築くかなんです。同窓会は新入生に期待しているんです。入学生のほとんどから入ってくれば、財政も潤ってきて目標として1億円の基金も可能かなと思います。今は何とか入学式の通知に同窓会の案内も入ることになっていますけど。そこからさらに医学部、法文学部、教育学部などの教育後援会募金が入ってくるんですよ。それぞれの同窓会という名目ですよ。だから非常にややかしいんですよ。私たち同窓会が真剣に取り組まなければいけないのは、同窓会という名目でこれらの窓口を一本化する必要がある。次の新入生の方からどれくらい入会金が入ってくるか、非常に関心を持っているんですよ。



左から伊舎堂、下地、新川

司会 ありがとうございます。

上江洲 関連ですが、僕には案内がきましたが、今度同窓会に行かないかと誘ったら、いや僕には来ていないよ、と言われました。だから名簿作りというのは、どこをどう通じてきたのか、疑問ですね。今後久米島では、名簿作りを支部でやって、同窓会の事務局に上げてコンピュータに入れてもらう。そういうシステムを取らないと、問題解決にはならないと思います。具体的にそういう作業をしたらどうですかね。

司会 助かります。名簿作りを各支部でやっていただいて、送ってほしいと思います。

上江洲 例えばこういうことなんですよ。久米島で各小中学校で転勤がありますよね。また、2、3年すると転勤になります。そのときにこちらまで届けていただいたら直せるんですがね。

渡久山 ただ実際は難しいですね。関東支部は750人ぐらいいますね。最近個人情報保護法で、名簿のことは難しくなっていると思うのですが、どうですか。

高嶺 各学科を支部扱いにしていくことが名簿を集める上で、いいかなと思います。会員の拡大にもつながっていくかと思います。今後検討していく必要があると思います。

仲門 神戸大学同窓会の場合は、学科単位でやっているんですね。会費の徴収も学科単位なんですね。法人化についても、同大学の同窓会は法人化されていて、専任が5人いるそうですが、会計処理で大変だと聞いています。それでも収入が入ってくればいいと思います。それからあとはホームページですね。そこで全部名簿変更をしてもらうということで、これが一番メリットあるそうです。だから琉大同窓会も早くホームページを立ち上げることが重要です。

会長 私は会長になったときに同窓会員がこれから増えていくので、全体が集まって総会を開くのは難しいと思います。今後は支部や学科の同窓会を強化して、活動すればいいじゃないかと申し上げたことがありました。学部とか学科を強化し、資金もそこに行かせる。しかしそうすると、同窓会は力は持たずに名前だけということになりますが、これは問題ですね。大学が独立行政法人化しました。同窓会が大事というのは、大学のために支援しなくてはいけないからなんです。皆さんご存知のように、大学というところは縦割りで、各学部が独立したようなものなので、新しい学科などができる場合は、全学的に人員を減らされるわけですからみんな反対するんです。そうすると何もできません。私は大学の経営委員として入っていますが、大局的立場から物が言える立場なのが同窓会だと思います。

そこで、その場合、学部、学科という単位ではだめなのであって、大学全体の支援という場合にはやはり同窓会でないと力を発揮できなくなるんです。

学部でやるのもいいんですが、母校の発展という場合はこれは難しくなると思います。

司会 増田さん、どうぞ。

増田 初めて発言させていただきます。医学科からの報告です。医学科は1981年（昭和56年）に第1期の入学生が入りました。現在卒業生が18期まで出ておりまして、卒業生全体で1730人ほど出ています。在校生が600人ちょっとです。職員も同窓会の会員になっております。全部で2500～2600人の団体です。



増田昌人

二つ話したいことがあります。私たちの同窓会は会費が年間で5千円いただいています。私は2期生ですが、実は4期生くらいまでは母校愛が強くて、「いざ鎌倉」という時には集まるということなんです。15、16期くらいになると、何期かわからなくなるんですね。それで実際には納入率が10数%になっていまして、1期生、2期生は40%、50%いつているんですが、10期以降は10何%という状況でした。

そこで、このままいきますと単年度で赤字をきたすものですから、去年から入学生から、3万円の入会金を取ることにしました。これが、6年間となると1年で5千円ということになります。

医学科はこれとは別に父兄会というのがあ

りまして、そこにも会費を払ってもらっています。これは運動部、文化部の活動費に使われたり、国家試験対策の費用に使われます。この二つを、父母と、入学生に送っております。そこに琉大同窓会本丸の会費の通知が入ると、どうなるか、今後詰めた方がいいかなと思います。

それから名簿の方なんですが、私のところは90%から95%は現住所を把握しています。勤務先はおそらく98.9%は把握しています。学生の現住所を含めまして、私は毎年、名簿を発行していきまして、年会費5千円を納めた人にだけお配りしています。

司会 先ほどインターネットのことがありました。これはどうなっていますか。

事務局長 私が来てから2年になりますが、これまでも大学に要望しました。それで、OKでした。資料は出して、もう入力済みです。一昨年の12月です。そしてEメールもつくり、これも去年の夏ごろから稼働しています。しかしホームページはずっと延び延びになっています。当局は法人化のことで手いっぱい、検討していますと言っています。

増田 医学科の同窓会は4年前からホームページが立ち上がっていて、完全に独立でやっているんですよ。それをやったらまずいでしょうか。私たちは、時期がくれば大学側とリンクしてやりたいと思っています。まず立ち上げないと社会的な団体として認知されないということがありまして、やっています。立ち上げに数十万円かかって、メンテナンスも毎月何万円か払って、別個に事務室を構え

て、2人事務員を雇っています。

そういう方法で同窓会も作れないものでしょうか。学科のホームページを見て、本丸の同窓会のホームページが見れないのは寂しい感じがするんですよ。

伊舎堂 組織の強化ですが、確かに総会を年1回開かないといけないとか、入学生には合格したときにお祝いをしてあげるとか、そういうものを規約の中に書いてあるんですよ。それでも支部の場合はうまく機能していないということがあります。支部の総会を開いたのも2回か、3回くらいしかありません。八重山支部の場合は、琉大の八重山芸能研究会に対する募金活動はよくあるんですよ。しかし、そういう程度の活動しかないんです。必要に応じて会を進めているんですが、組織ができたときに名簿は作ってあるんですが、これは大変難しいようで。医学科の例もありましたが、学科を中心にした連合会的な組織を立ち上げて、最終的に上に同窓会があるという形のものがないかと思えます。

志良堂 今の話と関係するんですが、学科単位の組織がないという面はあります。学科にはまた同期会などもあり、裾野が広がっていると思います。その中会費の徴収もできるのではないのでしょうか。組織の強化というのは下のほうから積み上げていかなければなかなか難しいのだと思います。総会にも学科の同期に声を掛けましたら、当日は8人参加していました。学科が充実していけば、また同窓会も充実していくのだと思います。

高嶺 今は大学の入学式と卒業式に同窓会会

長の挨拶がないんですが、そこに同窓会役員が登壇することによって、同窓会の存在感も高まっていきます。今後その辺を同窓会から申し入れて、会長があいさつすることで、アピールする。そのことで会費の徴収にも結びつくと思います。もう一つは、年間150万円出している課外活動援助費については、これを奨学金に代え会長から奨学金を渡す。そのことでアピールもできる。そういう「露出度」を高めていく工夫も大事だと思います。そういうことで財務の強化もできていくかと思えますし、会員の拡大にもつながっていくと思えます。

司会（仲門） これから後半に入ります。司会は仲門が担当し、進行させていただきます。まず同窓会が琉大のためにどう支援したらいいかについて伺いたい。これまで琉大に1億5千万円の支援をしているが、これがあまり知られていない。これをどうするか。私は琉大から離れ、関西にいましたが、同窓会の良いところも悪いところも見えるんですね。これまでの同窓会の実績は大いに誇りにしていいし、またぜひ続行させなければならないと思います。



仲門勇市

それから大学も昨年から法人化して、180度変わったと思います。大学が法人化してどう変わっていくのか、まず会長にお話していただき、引き続き宮城事務局長から支援等について何が課題なのかについて、説明をお願いします。

会長 大学が法人化ということになりまして、学外から同窓会長として（経営委員会の委員として）参加しています。法人化法という法律が変わりましたが、既得権というのと従来の縦割りですね、学部の利害がからんでいるわけですが、例えば、学長選考一つをとっても「きちんと選考会議でやれ」というんですが、これに猛反発する人たちが多くて、大学の職員だけでやろうということをするわけです。大学自体が変わろうとしないというのか、旧態依然として危機感を持っていない。われわれとしては、外部から来ている人は経営者も入っていますので、大学の運営ということをもまず頭に置いてやっています。大学側は運営というものがあんまり頭の中にないんですね。そういう意味で非常に困っているんですが、もう一つは私たちは大学が法人化すれば、文部科学省の「核の傘」からはずれて、独自にやれる分野が多くなり、従って、今までの同窓会に対する対応の仕方も違ってくるといふ期待も持っていたんですが、相変わらず文部科学省の方しか見てない。

入学金の徴収の仕方一つにしても、前と同じように大学の機関じゃないから、袋の中に振り込み用紙を入れるわけにはいかないという。ホームページのこともそうだと思います。確かに規程があつて費用が出るものですから、法人化したら、同窓会の力が必要ですよと言いながら、じゃあ同窓会は自分たちと一体かということそうではない。しかし、支援を頼む時は同窓会なんとかという。これを改めない限りは、ホームページの件など事ごとに問題が発生するのではないかと思います。そういうわけで何かの方法で、説得していかなくてはいけない。われわれにもそういう義務があ

ると思いますが。大学の事務局が動いてくれないのでその辺のことをクリアしていかないといけない。まあ、これが今後の同窓会活動に大きな影響が出てくると思います。力関係は大分変わったと思いますけれど。

司会 大学とのパイプをなんとかしないといけないと思います。私は同窓会の役員と琉大の役員との話し合いの場を多くもったらいいと思いますが、どうですか。また、これまでの支援策、どの程度評価されているのか、確かに大学側から話を聞かないとわからないと思いますが、宮城事務局長からお願いします。

事務局長 いま、話にも出ましたが、思うことは1点ですよ。会長が経営委員になっているし、当山さん、高嶺さんも役員になっているし、現に中枢に入っているわけですよ。これは学長が重々承知し、連携していこうと言っているんですが、理解してくれない理事もいる。これが発端になっていろんなことがうまくいかないんですよ。会費徴収の問題などです。一つはこれを解決しなければならない。

根本的な財政改革は入学の時に、きっちり納めてもらう。沖国大がそうなんですね。入った時に納めたらそれで済むというわけです。いまは入学生の1割納めるかどうかです。いまこのことで困っていることがあります。全学同窓会、学部同窓会、学科同窓会等の混同なんです。

おまけに去年から机を並べて徴収することが禁止されているんです。振り込みに変わりました。

司会 課題についてお話いただきました。支援策でこういうことをやったらどうかという提案がありましたら、どなたかどうぞ。

増田 先ほどの150万円の費用は何に使われているんですか。

会長 これは課外活動援助費でして、大学からは1銭も出ていないわけですから、学生にとっては大変ありがたいと思います。しかし、一昨年から就職講座をやっていますもんですから、そのうちの50万円を削りまして、それに充てています。課外活動費はもらっている学生からものすごく感謝されているんです。

事務局長 一昨年ですかね、医学部学生が事務局のこちらにきましてね。同窓会からの寄付金を九州・山口大会に水泳とかに参加していきまして、「おかげさまで助かりました」とお礼の訪問を受けました。

私は喜びましてね。学生が来たのは、医学部の学生が初めてでした。

増田 学生の方は同窓会からもらったという意識があまりなくて、学生部からもらったと思っているんです。大学を通さずに同窓会でできないか、審査を同窓会のほうでできないかと思います。援助先を絞って金額を高くして、学生のほうから文書を書かせて、同窓会で選考する。そしてきちんと伝達式を行う。それを学生部便りなどに載せれば、職員のほうも「同窓会はすごいんだな」と思うでしょう。医学科の方でも学会などに行く学生たちにこのようなことをさせ、帰ってきたらレポートを書かせています。こちらは年に2、3



左から高嶺、上原、増田、仲宗根

回機関誌を発行していて、これを職員や学生、同窓生が見ますので、「ああ、会費はこんなふうにも使われているんだな」と理解することにつながっています。

そんなことをすると、同窓会に対する見方ががらっと変わると思います。

志良堂 母校への支援は、これまで募金活動や学部への補助金等財政的な支援が中心となっていますが、官公庁や経済界をはじめ多くの分野で活躍する卒業生を擁する同窓会として、産官学連携や交流へのパイプ役に貢献することや、インターンシップや就職活動等をバックアップすることで、大学側や在学生へ同窓会の存在感をアピールできるのではないかと。夏期休暇等の長期



志良堂清治

休暇中のアルバイトにしても、専門性を生かし実践ができる同窓会員が役員企業の企業で働ける仕組みができれば、在学生と同窓会との関係もより緊密になるのではないかと思います。

司会 同窓会から学生に出されている援助金ですが、同窓会をもっとPRするような方法を評議員会で検討することが必要ではないでし

ようか。

会長 そういう考えはありまして、贈呈は同窓会事務局でやろうとか、こちらで選考しようという話もあるんですが、しかし、学生のことがよく分かりませんので、同窓会の力では大変なんです。だから選考は大学でやってもらった方がいいんです。ただ、大学側の説明不足もあって、大学から出しているような格好でやっているんです。「これは同窓会からですよ」と言ってもらえば済むことなんですけどね。

高嶺 贈呈に会長も同席することが必要ですね。

又吉 推薦を誰かにやってもらって、同窓会が贈呈する。それがいいんじゃないですか。

増田 学生便りにほんの少ししか載っていないんですね。例えば、同窓会の会報に感謝の言葉を書かせる方法もあります。それと、奨学金を出すのであれば、10人に10万円を出すよりは、1人に100万円とか、2人に50万円を出すようにして、会報が出るたびに、本人の学生生活をレポートしてもらおう。そうすると、同窓生も同窓会はこれだけのことをしているんだなと思うでしょうね。

司会 この件は評議員会ででもご提言いただければと思います。

上江洲 関連してですが、高嶺さんがおっしゃった、入学式、卒業式での同窓会会長の挨拶ははっきりと入れないといけませんよ。

司会 私が大学にいたころは。「あまりにもあいさつ（祝辞）が多いじゃないか」という指摘がありましたね。それが挨拶を省く一つの理由だったと聞いています。それから少し話は変わりますが、同窓会というのは大学にとってどのような存在なのかということですね。どなたかご意見があればどうぞ。

仲宗根 同窓会長があいさつするようになったのは、ちょうど私が庶務課長をしているときです。式辞などを担当しておりましたが、そのときは式が終わってから、「学生の皆さん少しお待ちください。これから同窓会会長のお話がありますから」ということでしたね。私が記憶するところでは、それは大学が千原キャンパスに移ったあと、1984（昭和59）年と1985年だったと思います。そのあとは私は学外に出ましたので分かりません。

又吉 大学側とのこれまでの諸々の問題は、人間関係がうまくいけば解決する問題なんですか。

会長 人間関係ではなく、その人の考え方でですね。どこを向いているかです。つまり文部科学省に向いているか、われわれの方に向いているかです。

又吉 人事の時期に役員会と懇親会を持つとか、これも一つの方法ではないでしょうか。

会長 そういうことも考えないといけないかもしれませんね。ただ、人間関係だけでもないようですね。

渡久山 大学の先生方は今、ドラスチックに大学が変わりつつあるというのはご存知だと思いますね。この前（2005年1月）にも中教審の答申が出たんですね。「日本の将来における大学像」ということですね。その中身を結論的に言いますと、法人化した大学がベースになるんですが、まだその総括は出ていないんですよ。今の国立大学法人法の関係で、問題の一つは、事務官ですね。事務官が民間人になったんですよ。ですからまったく民間の雇用関係の法律になっているわけです。そうすると雇い主は誰になっているかという、学長になっているんですよ。だからそういう関係ということをもう一度、見直さないといけないということです。

今までの講座制をどう廃止するか。教授会ではなく、今の経営協議会とか、理事会とか、今の研究協議会とかいうようなものの役割分担をどう変えていくか。そういうものが議論されて出てきているわけですね。そういうことを審議して、あのときの感覚で聞いていると、何かまったく変わっていない、逆に悪くなっているような感じがします。もっと活性化するためにやったはずなんですけど……。

国立大学が、国際的な競争力がないとか、もっと内部の活性化を図らなくてはだめだろうということで、そのためにどこからメスを入れたらいいかと議論されたんです。そういうことで、今の話を聞いていると、後戻りしているのか、その趣旨が活かされていないのかという感じがしますね。それに対するレジスタンスになっているのか、それは分かりませんが、何となくそういう気がします。

日本の大学はかつて産官学連携を拒否していたんですね。しかし、今は産官学連携を生

かすことによって、どうしていくかと考える。極端な言い方かもしれませんが、大学の博士課程を出た後に、民間の研究所に行くか、それとも大学に残るか。今までだと残ったほうがいい。しかし、研究施設が旧帝大だと別ですが、民間より劣る。民間だと研究だけすればいいんですが、大学に残ると、研究と教育をしないといけない。その時間のロスが出てくる。論文も数が少なくなる。だから大学に居ては不利だとまで言われてきている。

まだ琉大の場合はもっと教育を大事にしようということがあるが、これからは問題になるような状況が出てくると思います。やっぱりどれくらい独自の金を作って、自由に使えるかと。大学独自で金集めをしないといけない状況に追い込まれつつあるんですよ。ですからその辺を考えないとまずいんじゃないですかね。

そのために個性と特性というのが発揮されないといけない。

そういうことを考えると、同窓会が持っている意味というのは、そういうことでは非常に大きいと思います。これまでのように大学が国立だったから、民間（同窓会）を入れちゃだめだと。そういう考え方を取っていたんでは、同窓会との連携はますますできなくなると思います。

司会 当山さんに最後にお話していただきたいと思います。渡久山さんの話にも出ましたが、大学は本当に変わらないといけない。また、どう変わらないといけないのかについてもう少し話し合っていきたいと思います。

当山 大学が変わらないといけないと言って

いますが、これは同窓会自体が変わってリードしていかないといけないと僕は思いますね。だから事務局長がどうだったとか言うよりも、どうかかわっていくかという積極的な姿勢が大事だと思います。

高嶺 会費を納めないでもいいよというような流れが作られていくと大変怖いですね。卒業生が「納めなかったよ。納めなくていいよ」ということになる、後輩は納めなくなるんですよ。同窓会の露出度が影響してくると思うんですね。そういう流れを止めるためにも、卒業式などにおける同窓会会長のあいさつは絶対に必要だと思います。増田さんもおっしゃいましたが、奨学金の出し方とか、支援の仕方とか、これも露出度を高めていって、そういうものがあるということを知らせる必要があります。私たちの努力も大事です。

司会 同窓会としてこれまで母校に対していろんなことを支援してきました。われわれ自身も変わらないといけないという話も出ました。大学も変わらないといけない。そういうときにわれわれがこの場でだまっていいいのか。ある程度母校に対して言うべきことは言っていく。そういうことを感じていまして、同窓会としてこういうことを提言していきたいというようなことを皆さんに伺ってきたいのですが。大学のデータも資料として入れさせていただきます。キーワードもちょっと作っておりますが、大学をサポートするのも同窓会であると考えて、できればこの提言を最後にまとめさせていただいて、会長から学長に提案していただければと考えます。

当山さんは監事として大学にかかわってい

ます。大学の一つの評価といたしますか。新聞報道によりますと、琉大の入学試験競争率（2005年度）は5.1倍で、昨年と比べると0.4ポイント下がっています。そして一番トップが、夜間の工学部の機械システム工学科なんです。42.2倍。そして昼も機械システム工学科で、27.1倍です。それから教育学部の教育カウンセリング22.1倍。それから一番低いの美術教育1.7倍、それから法文の国際関係学科1.8倍、それから情報教育システム1.7倍です。

高校生の大学進学については九州ブロックや関西では、沖縄をターゲットにしていますね。県内の高校生は一万五千人が卒業して、大体5千人くらいが大学に進学します。あとの1万人は専修学校、それから就職などとなっています。九州で沖縄をターゲットにしている大学は、全部駐在員を置いているんですよ。長崎県では、向こうの私立大学は一つになりまして、国立大学に行くのは仕方ない、私立で県外に出て行くのは止めようということで団結しています。そういう中で、琉球大学はこれから他大学と競争して入学者が減っていくことが予想されます。そういうことを踏まえた場合、入口がどうなのか。それとあわせて出口ですね。就職率が昨年度（2003年度）は70%です。そういった入口、出口、教育制度（教育内容）を含めてご意見があればどうぞ。

当山 私の分野ではないんじゃないかと思いますが、経営関係の協議会ですが、具体的に理事がどういうふうにして大学を運営していくかを含めて、中・長期目標を含めて、審議なさると思うんですが、監事の場合はどちら

かといいますと、理事を含めた学長や、その他事務職員の皆さんが適正に事務を行っているか、監視役でありまして、具体的な中身の提言を行っているわけではありません。ですから会計と業務について適法かつ適正に業務が遂行されているかどうか、なんです。常勤の平監事と話す中で、もしかしたら同窓会が力を貸すことができるんじゃないかということもあります。琉大の場合、特許とか、発明関係が少ないんだそうですよ。それで、本当はもっとあるんじゃないかと。それを例えば産業とかと提携をして、たくさん特許とかを出してですね。場合によってはロイヤリティー関係で、その先生や、大学側が一体となる体制（形）をもっと作っていったいいんじゃないかと思います。それには同窓会の皆さん、産業界にたくさんいらっしゃるわけですから、お金を集めて大学に出すのも結構ですが、そういう無形の協力というのもあっていいんじゃないかと思います。

サークル活動に贈っているお金の一部を、場合によっては寄付講座を作ってですね、同窓会がわずかな講座じゃなくて、通年で、しかも社会で役に立つような講座を開設してもいいんじゃないかと思います。どなたかがやっていますよね。税理士さんでしたかね。これを同窓会がやっていいんじゃないかと。そうすれば、在学生に対して同窓会がこういうふうに貢献しているということが分かりやすいんじゃないかと思います。これはもう監事の立場ではなく、同窓の立場で、思いつくことを言っております。

さきほど、ホームページを含め、琉大事務局がなかなか動かないという話がありましたが、いま事務局は大変なんですよ。独立行

政法人化して、夜も眠れないくらい忙しい思いをしている。いろんなところを立ち上げる。個人情報保護法ができて、それについての規則とかも定めていかないといけない。何から何まで大変なんですよ。ですから彼らはあまり責められない。ほんとに忙しいですよ。

むしろ同窓会、あまり大学に頼らないでインディペンデントにやれるという方向も今後考えてもいいんじゃないかと思います。できなければ止むを得ないのですがどうでしょうか。

事務局長 同窓会主催で平成15年から職業講話ということで、同窓会事務局がある記念館で月1回やっています。大学に就職支援センターというのができまして、そことタイアップしまして、集めるのは大学側、講話するのは私たちということになっています。しかし、集まりがあんまり良くないのでなんとかしなさいという感じです。教員採用に関する講座



左から比嘉、当山、上江洲

では結構集まりはよかったです…。採用試験関係につきましては私が通年やりまして、4人合格、採用までいっております。

やはりいま言うように広報が足りないですね。支援センターに聞くと教授に流したと言いますが、学生に聞くと「聞いていない」という感じです。

当山 私の仲間がやった講座ではほんとに数名の参加で、1対1で話している感じだったといいます。だから学生が本当に欲している講座なのかということもあります。

会長 十数年前から運営諮問会議というのがあって、私はその議長もやっていたんですが、就職率が悪い、就職試験の合格率が悪いというのがありまして、何かやるべきだということをやっているときました。大学の先生の中には、こんなものは大学がやるものではない。私立大学ならともかく、国立だとできないという人もいました。何のための教育か、例えば教員免許を持って、採用試験に通らなければ何もならんわけです。通すためにどうするかは、先生方の責任であると思うわけです。そういうのは必要ないと思う人が多いんです。今の講座も立看板出して終わりなんです。就職支援センターも私が言ってやっつくったんですが、形ばかりのものになっているんですよ。先生方はどうして一言、講義の時に「同窓会でこういうことをやっているから」と言わないのか。そういうことを一言いえば学生は来るんですがね。

そんな状況では、私立大学にどんどん追い抜かれていくというのは目に見えているんですよ。

渡久山 関東方面に来る琉大卒業生は優秀なんですけどね。沖縄にいてニートとかで我慢する人がいるんですね。どこに焦点を当ててやるのか、県内就職者を焦点にするのか、焦点を絞って何かをやったほうがいいと思います。いま教員の話が出ましたが、あまりにも採用数が少ないんですよ。そうすると教育学部を

出ても7割が教員になれない。教育学部の卒業生に県内就職をさせるためには、何が必要か。具体的に絞ったやり方がいいと思います。

司会 少し話をまとめてみますと、同窓会が提供している就職講座ですが、これを活性化しないといけない。大学はいま、どういうやり方があるか、そういう話が出てくると思いますね。そういうことでどなたか、意見がありますか。渡久山さんからは絞ったほうがいいんじゃないかという提案がありました。

下地 離島に出前講座みたいなことはできませんか。高校生などを対象にしてです。文部科学省の事業の中に、理科大好きプランという事業があります。スーパーサイエンスハイスクールとか。サイエンスパートナープログラムとかですね。宮古高校の理科の生徒が珊瑚礁の研究ということで、夏休みの2日間、大学の先生を呼んで学びました。開邦高校でもかなりレベルの高いものを大学と提携してやっているそうです。そういったことが離島ではなかなかやってもらえないということで、できれば琉球大学に出前講座みたいなものをやっていたらと思います。

もうひとつは、共通一次試験というものが始まったのは1979年ですが、八重山など、離島はみんな一緒だと思いますが、100人以上の生徒を引率して、宮古高校の場合は真和志高校で受験をしました。これが父母の負担があるということと、またコンディションがかなり違いますので、どうすればいいかということを考えました。それで、宮古で出張試験ができないかということになり、大学にお願いして翌年からできるようになりました。

そういうことで、同窓会でも継続して離島に対して何かできないものかと思えます。

司会 出前講座というのは可能かなと思えますが、これも今後同窓会で検討できるかと思えます。ほかにどなたか意見がありますか。

渡久山 琉球大学が研究機関、教育機関として県民にどれくらい提供できるか、非常に問われると思うんですよ。そういう意味では、沖縄県は離島が多いわけですよ。離島を視野に入れて、離島にいる県民に対してどれくらいの高等教育サービスができるか。これはやはり琉大の一つの使命だと思いますね。そういう意味ではこの辺の話はされたほうがいいでしょう。

仲宗根 ある企業家の方からこういう話を聞きました。琉球大学に電話をして、うちでこういう仕事（海底調査）をするんだけど、工学部、あるいは理学部のそういう専門の先生はどなたでしょうかと問い合わせたそうです。そうしたら返事がなかったというんですね。しょうがないからということで、この方は人づてに九州大学の工学部にお願いをして、いろいろとご協力をいただいたという話があります。それぞれの大学にそういう窓口がないのでしょうか。産官学共同研究というようなものを推進していく窓口がなければ、そういうものを設けておかないと地域への貢献はできないんじゃないかと思えます。

司会 これはできていまして、昨年（2004年）の4月から組織改編で、社会連携室というのができています。職員のほか、担当の理事もお

ります。

山城 ある学生ですが、大学時代から弁護士事務所に行って指導を受けているんですよ。大学2年までは琉大でしたけれど、その後熊本大学に行って法学部を卒業。司法試験に合格して弁護士をやっています。彼の話を見ると、郷土の弁護士を育てるということで20年ほどそういうことをやっているそうです。就職に対してそのように取り組んでいる人はいないでしょうか。育てていく人は同窓会にはいないでしょうかね。

当山 県内では数カ所の事務所がそういうことをやって育てていますね。今年（2004年）は沖縄出身者が司法試験に9人合格しまして、これは過去最高でした。私が東京に出て受験勉強を始めたころは、琉大からまだ1人もおりませんで、その後、私の前に1人合格者が出て、私が2人目でした。4、5年あとは少なくともずっと毎年1人は合格者が出るようになって、九州では九州大学の次に琉大といわれるくらい続いてきたんです。大学では、勉強したいという学生に研究室を開放する教授（垣花教授）もおりました。ほかの先生から家庭教師みたいだと揶揄されながらも、私費で司法試験用のいろんなテープを買ってきたり、山のような資料をそろえたりしていました。つまりそこで種まきをしているんですね。そこで育った学生を受け入れたのが知花さんという弁護士です。それはうちにもいますし、幸喜さんという弁護士もそうしています。

今回琉大に法科大学院をつくっていますが、優秀な学生を全国から集め、司法試験の合格者が出ないと、淘汰されてしまいます。そこ

で何とか、奨学金をつくろうじゃないかと。ただ、つくるには時間がないものですから、とりあえず有志の皆さんで年間3人くらいずつ、月5万円くらいを支給できるような奨学金をつくろうと比嘉会長も含め準備してきてですね。有志で年間60万円ずつ出し合っています。ただ、これもいつまでも続きませんので、組織で支援しないと持たんだらうと思います。

司会 あと何かありましたらどなたか発言してください。

上江洲 久米島は支部を立ち上げてあとから、これからどうするかということを考えてきました。座談会のこれまでの話の中で大学への支援というのがありましたが、今度は支部の支援ということで、同窓会のイベントに講演会の開催というのがありました。例えば久米島高校を見てみましたら、この間琉大に年間1人入るか、2人入るかの状況です。そんな中、観光科学科に5人の推薦枠があり、久米島高校にもその話はしたんだけど、高校から推薦がきてなかったというさびしい話を聞いています。

私たちの時代はですね。久米島高校から琉大に1学年で20人から25人は合格したんです。これは僕の分析では、戦後六・三・三制の教育が始まって、スタートはどこも一緒なんです。ですから久米島高校であろうとどこであろうと、要するに同じ土俵でやって琉大に合格したわけです。ところが教育環境、社会環境が変わってきてまして、これはいつか久米島高校はなくなってしまうなあとと思うくらいです。今度も定員割れでした。それで

今は中高一貫教育ということで取り組んでいます。そういうものを含めて、例えばいろんな事業をもっていこうと計画しているんですよ。

同窓会主催でイベントを久米島高校でやっていただいたら大変ありがたいなあと思います。それと琉球大学から出前講座といいますか。ちなみに沖縄大学は絶えず久米島に来ています。せめて同窓会ででもやってくださいましたら、そのことでまたこれからの久米島の後輩たちや地域の父母たちにも聞いてもらういい機会ではないかと思います。さらにですね。冒頭でも申し上げましたが、海洋生産学科が4月から開設されたら、海洋深層水研究所との関係もありますし、そういうことを含めまして、同窓会としてどういうことができるのか。そういうことも皆さんに問題提起したいと思います。

司会 これまで同窓会の支援について話し合いましたが、その効果（使途）が発揮されていない、大学及び社会に知らされていないことも多く、同窓会の活動を大いにPRすることが必要だと思います。所要時間がオーバーしていますので、あとはお一人ずつ発言して終わりたいと思います。よろしくお願いします。

高嶺 学長の年頭のご挨拶、それからきょうのキーワードが提案されています。これを実現するためにどうあるべきかということ、結果を出すことと、行動力が必要だと思います。大学が法人化されていますが、先生方の意識はまだ現状のままだと思う。それでおこがましいんですが、大学の先生方を対象にした意識改革を提案する形の講演会をできないもの

か。同窓会がそれを人選できるようなネットワークはあると思います。学長は年頭挨拶で素晴らしいことをおっしゃっておられた。これを実行してほしいと思います。

志良堂 大学院大学の創設がより具体的になり、国レベルで進められておりますが、同大学の開学により沖縄が国際社会から注目される中で、歴史と伝統があり総合的に優れている地元の唯一の独立行政法人である琉球大学に対する地域社会や国際社会からの期待や注目度合いも高まるものと思われま



左から新川、志良堂、伊舎堂、下地

学生も国内のみでなく、国際的な規模で琉球大学に目が向けられるのではないかと

今、地域特性を生かした学部学科の創設に取り組んでおりますが、大学院大学との連携を視野に入れた取り組みを積極的に行うことにより、他の大学と比べて魅力ある琉球大学になるのではないかと思います。

司会 ありがとうございます。時間がオーバーしており皆さんから十分な意見・提言を受けることができず申し訳なく思います。そこで、私の方で若干まとめてみたいと思います。まず一つは同窓会を大学及び社会にアピールして、会員などにインパクトを与えるべきではないかという提言がありました。二つに大学側への寄付金の在り方なども見直すべ

きではないかという提言もありました。三つは離島に対して出前講座をしてはどうか。そうすることによって同窓会の活動をPRできるのではないかという提言もありました。それから組織の強化で、大学との有益な関係を持つために両機関の人間関係を大事にし、それを維持すべきではないかという提言もありました。場合によっては琉大の役員と同窓会の役員との懇談会を開いたらどうかという提言もありました。その他、ご提案がありましたらどなたか、どうぞ。

渡久山 組織強化ですが、関東支部の一つの課題は沖縄県以外の出身者をどうしても同窓会に入りたいんですが、こういうときは本部の協力を得たいと思います。

司会 それでは長時間にわたってありがとうございました。琉大への新たな支援及び琉大への提言について、今後、評議員会で議論を続けていただいて意見としてとりまとめて会長から学長に提言として提案していただきたいと思

本日は、長時間にわたり記念座談会「活力ある同窓会を目指して 現在・過去・未来」について忌憚のないご意見・提言をいただきありがとうございました。この意見・提言をもとに今後の同窓会のさらなる発展に参考になることを期待申し上げて終わります。ありがとうございました。

※ 座談会は、2005年（平成17年）2月13日ホテル西武オリオンにて行いました。